

視察調査報告書

委員会名	岡崎ブランド育成検討特別委員会
参加者	委員長 中根 武彦 副委員長 柵木 誠 委員 大原 昌幸 野島 さつき 加藤 嘉哉 加藤 学 山崎 憲伸
視察日時	平成29年5月11日(木) 10:00~12:00
視察先・概要	石川県金沢市 人口:465,265人 世帯数:201,623世帯 面積:468.64 k m ² 特記事項:住みよさランキング2016(東洋経済)総合102位 (安心208位、利便200位、快適92位、富裕153位、住居647位)
視察項目	「伝統産業振興の取り組み」について
視察概要	<p>1 金沢市の伝統工芸と工芸施策について</p> <p>(1) 現状 国指定伝統的工芸品は6業種、希少伝統工芸品は20業種指定されているが、生産額、事業所数、従業者数ともに減少傾向であり、後継者不足、原材料の仕入れ価格の高騰、受注量の減少などの問題を抱えている。</p> <p>(2) 基本的な考え方 作り手が躍動するまち(人材育成) 新しい工芸を創造するまち(製品開発) 手仕事の価値を発信するまち(情報発信・販路拡大) 暮らしに工芸が息づくまち(普及推進)を四つの将来像の基本的な考え方として、施策を展開。</p> <p>(3) 主な施策</p> <p>ア 金沢の文化の人づくり奨励金(人材育成) ・伝統工芸品産業の専門的な知識及び技術を習得しようとする方、または習得しようとする方を雇用する事業者に対して、奨励金を交付する。 交付の期間は3年以内 月額5万円~12万円</p> <p>イ 金沢ブランド工芸品開発促進事業(製品開発) ・現代生活に適應した新しいスタイルの工芸品を開発しようとする組合、企業等に対して開発経費の一部を助成する。 補助率2/3、限度額100万円</p> <p>ウ dining gallery銀座の金沢(情報発信・販路拡大) ・金沢クラフトや食文化を基本とし、金沢市の創造的かつ革新的な取り組みを含め、金沢の魅力を総合的に伝えるゲートウェイの役割。</p>

	<p>エ 伝統工芸体験教室の実施（普及推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸品とのふれあいの機会を創出するとともに、金沢の伝統工芸への理解を深めてもらう。 <p>2 金沢かがやきブランドについて</p> <p>(1) 概要</p> <p>独創的なアイデアや技術力等を生かして開発された新製品のうち、特に優秀と認める物を、金沢かがやきブランドと認定。（平成18年創設）</p> <p>補助率 1 / 2、限度額50万円</p> <p>(2) 情報発信</p> <p>認定製品及び制度の認知度向上と販路開拓を図ることを目的とし、認定製品を有する事業者で金沢かがやきブランド情報発信チームを組織し、見本市・イベント等へ出展している。</p>
<p>所 感</p> <p>視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線も発着する都市として、金沢市全体が生き生きとしていた。古くより北陸地方の中心地として栄え、伝統工芸品も多種多様が国の内外に知れ渡っている。早くより、「金沢市ものづくり基本条例」をもとにして、多くの地場産業、中小企業の育成に取り組み、古きものも大切にしながら、新しい産業の育成に努力されている姿は、本市の今後に参考となるものである。特に産学官が一体となって、アドバイザーに相談して、結果を求める方法も本市の地場産業の今後の指針には必要不可欠であると思われる。 ・岡崎ブランドの認定事業を検討していくこと。現在、本市の若い女性が県外の都市部に移住している傾向があると聞いているが、東京～名古屋間のリニア開通によって、本市に住んだまま大学進学や就職をする若者がさらに減ってしまうなどのデメリットの有無や、関東方面からの観光客が増えるなどのメリットの有無について、調査・研究していくこと。 ・加賀藩前田家の時代からの工芸振興で、数多くの伝統工芸が現代まで続いている。この伝統を後世に伝えるために、数々の奨励金制度や助成制度が設けられている。販路拡大のためにアンテナショップも展開しているが、どちらかという観光客誘致の色合いが濃い。金沢市は観光産業が盛んで、伝統工芸もその中で育まれていると思う。本市が観光都市として発展していくためにも、伝統産業、地場産業にもっと目を向け支援をしていく必要を感じる。 ・金沢かがやきブランドと称して、アイデア・技術力を生かし開発された新製品の中から審査員により審査・認定されたものが、かがやきブランドとして認定製品にされる。これは、中小企画者にとって、やる気、開発力、競争力をつけるには非常にいい機会であり、チャンスであると思われる。 ・工芸施策とものづくり戦略の両面から取り組んでいるようだ。工業施策については、「金沢クラフトビジネス創造機構」を設立し、販路拡大や情報発信などの機能強化を図るなど、積極的な姿勢がうかがえる。ま

	<p>た、工芸の継承・発展のための「人づくり奨励金」や中小企業の独創性や技術力の高い新製品を認定し、ものづくりの魅力を広く発信する「金沢かがやきブランド」事業についても、産業の振興や地域経済の活性化につながるものと思われ、研究すべきものとする。</p> <p>・本市より観光施策のかなり進んだ金沢市においても、伝統産業の振興はかなり苦戦していると感じた。本市においては、さらに厳しいことは容易に予想できる。伝統産業振興は、相当ふんどしを締めてかからないと難しいと感じた。</p>
<p>委員長の総括</p>	<p>予想どおり金沢市においては、観光と産業が上手に連携されていた。本市と比べ金沢市は、スケールの的にもはるかに大きな街ではあるが、本市によく似た環境にある街であるがゆえに視察対象としては、ふさわしい街であると考え、本委員会において、伝統産業振興の取り組みについて調査をした。</p> <p>主な施策については、視察概要の欄にも記載しました文化の人づくり奨励金、ブランド品の開発、dining gallery（ダイニングギャラリー）、伝統工芸品体験教室などになると理解した。</p> <p>感心したことは、それぞれの施策について具体的な目的が示され、成果を出している点である。生産者（伝統工芸産業）である零細企業と行政とが上手く連携しあい、ものづくりに専念できる環境がつけられており、ブランド開発に対しても予算的補助がなされることで、制作に専念できる魅力があった。そして、地場産業を含む零細企業の苦手とする情報発信と販路拡大についても、金沢クラフトビジネス創造機構との連携がなされ、行政ぐるみで実行されていた。</p> <p>本委員会の目的である岡崎ブランドの育成、創業支援、産業振興の参考になる内容が多くあり、調査の目的を十分達することが出来た。</p> <p>多くを記することはしないが、金沢文化の人づくり奨励金についても、彦根市と同様に人材への直接費用として期間限定ではあるが、活用できる交付体制ができていることに感銘した。</p>